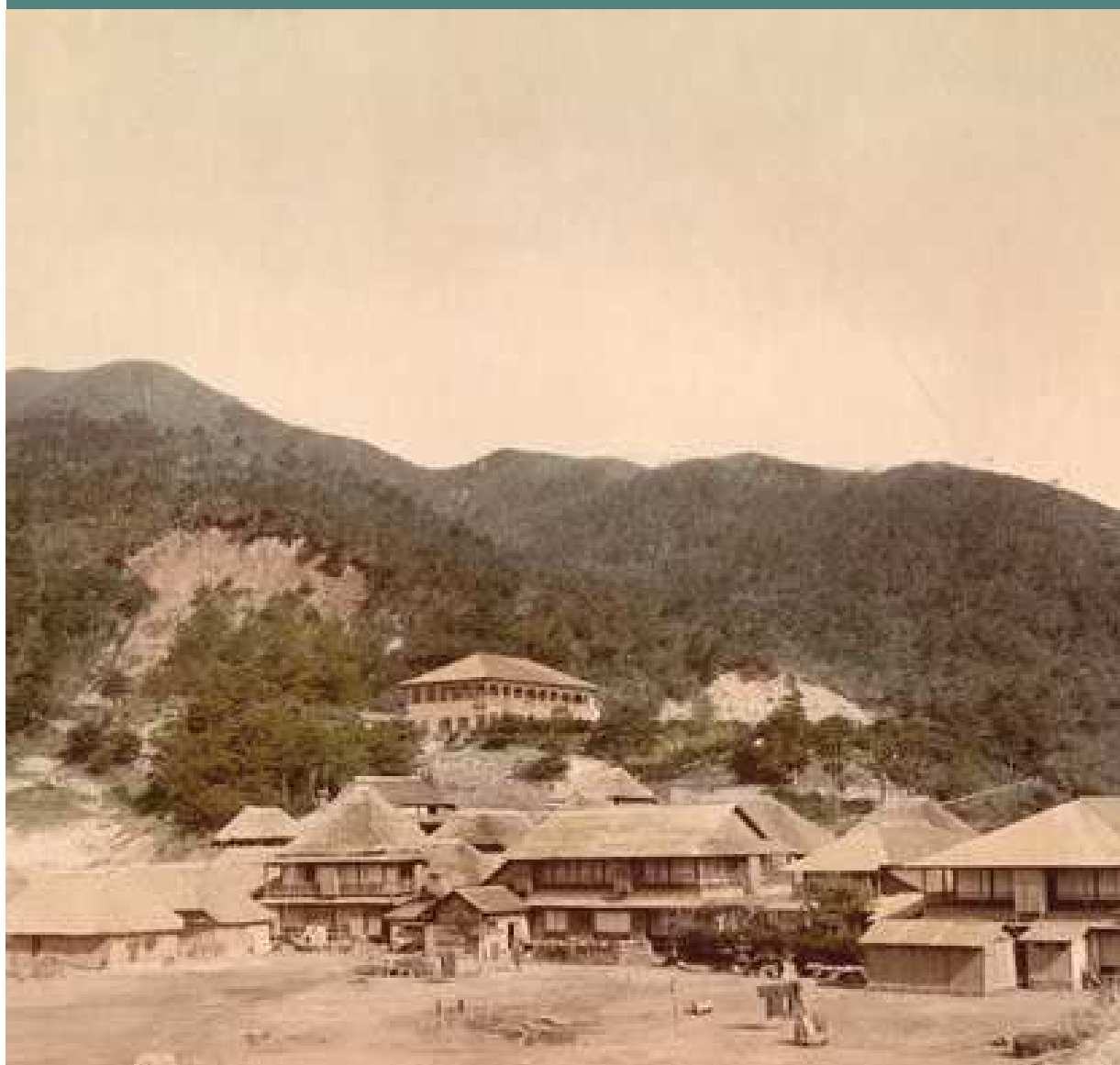


# 明治期の雲仙温泉

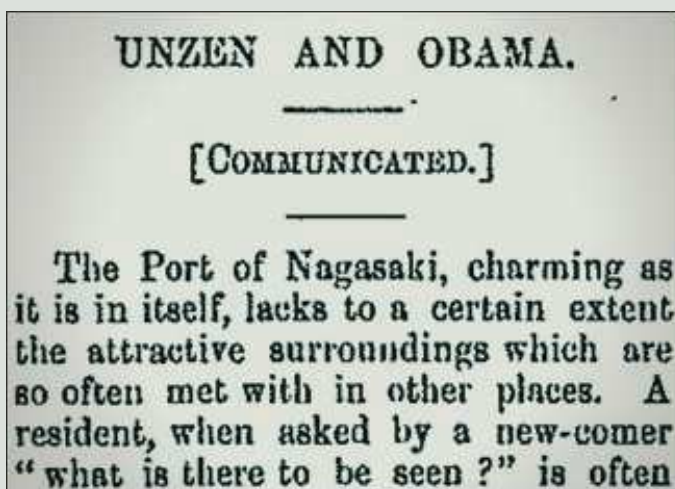
秘蔵古写真でたどる雲仙温泉の「避暑地時代」



長崎県雲仙市小浜町の雲仙温泉は、雲仙天草国立公園内に位置する温泉です。温泉は、古湯、小地獄、新湯の3つの地区に分けられますが、その歴史は大変古く、最古の記録は713（和銅6）年に編纂が命じられた『肥前国風土記』だといいます。

雲仙天草国立公園は、昭和9年に指定された日本最初の国立公園のうちの1つ（当時の名称は雲仙国立公園）ですが、雲仙の温泉街は、雲仙国立公園の中心地でした。雲仙の温泉街は国立公園指定以前から、明治44年には既に長崎県立公園に指定され、長崎県が独自に公園開発を行ってきました。なぜでしょうか？ それは、雲仙温泉は、幕末に最初の西洋人が訪れて以来、明治期には西洋人の避暑地として賑わっていたからです。より積極的に外国人を誘致するために、長崎県は雲仙温泉を県立公園に指定し、様々な公園施設を整えました。そして、このことが、昭和9年の国立公園指定に繋がりました。その結果、雲仙温泉は第二次大戦前まで西洋人の避暑地として栄えました。この時代を雲仙温泉における「避暑地時代」といいます。

雲仙温泉は、幕末から西洋人が訪れていたという特殊な歴史を持っているのです。そのため、雲仙温泉には、明治期の写真や英文記録が比較的豊富に残されています。日本の温泉地、観光地、または国立公園で、明治中期の写真や旅行記が残されている所がどれだけあるのでしょうか？ 明治期の風景が写真と文章でたどれるというのは、雲仙温泉の大きな特徴です。



雲仙温泉を紹介した記事（ライジング・サン・アンド・ナガサキ・エクスプレス紙、明治17年）。長崎在住の西洋人向けに雲仙温泉への訪問を勧める内容。

「長崎在住でありながら、雲仙温泉を訪問しないのは後悔の元」とあり、この時代はまだ長崎在住の西洋人の間で、雲仙温泉がそれほど有名ではなかったようだ。

**2. NAGASAKI TO SHIMABARA VIA  
OBAMA AND ONSEN.<sup>1</sup> [ASCENT OF  
FUGEN-DAKE.]**

**This excursion can easily be made  
in three days. It would be possible,  
provided an early start were made**

**<sup>1</sup> Locally pronounced Unzen.**

旅行ガイドブックの記事（ハンドブック・フォー・トラベラーズ（第2版、明治17年）。第9版まで版を重ねた当時の有名な旅行ガイドブック。雲仙温泉は第2版で初めて登場。

雲仙温泉を紹介した記事（ノース・チャイナ・ヘラルド紙、明治22年）。この記事によって、上海在住の西洋人に雲仙温泉が広く知られることとなった。

**UNZEN AND ROUND ABOUT IT.**

The sulphur springs of Unzen, in the neighbourhood of Nagasaki, have been gradually growing into favour with Shanghai residents as a sanatorium during the hot weather, or as a convenient place to visit for a holiday, especially with those whose time is limited; and the attractions to the spot were greatly increased when it was known that a hotel had been erected in foreign style, and that the proprietor offered board and lodging to visitors on moderate

*Unzen, Japan, as a Summer Resort for Missionaries.*

BY A. G. J.

HAVING spent from the twenty-fifth of June to the twenty-fifth of August of 1897 at Unzen, I conceived the idea of giving some information about it to the missionary body, in view of the fact that I had made my own preliminary enquiries in the interior with great difficulty before going there, being altogether indebted to the kindness of those heretofore unknown to me.

宣教師向けの雑誌に掲載された記事（China Recorder and Missionary Journal、明治31年）。1897年に雲仙温泉を訪問した宣教師による旅行記。

明治時代の写真が比較的多く残っているのは、西洋人が良く訪れた場所、もしくは外国人に人気のあった場所、つまり東京・横浜、箱根・日光のような関東圏の観光地、大阪・京都、長崎等です。雲仙温泉は、明治時代から西洋人が良く訪れた場所でした。そのため、雲仙温泉の明治期の姿がお土産写真として残されています。これは、「避暑地時代」を擁する雲仙温泉の大きな特徴とって良いでしょう。



小地獄の下田ホテル、明治32年。

1899（明治32）年の9月17日～10月10日に雲仙温泉小地獄の下田ホテルに滞在したドイツ人が残した写真アルバム『JAPAN 1899』には、それぞれの写真に簡単な手書きのメモ（キャプション）が付けられています。それによると、雲仙温泉に滞在したのは、ゲルラッハという男性とマリーという女性。ゲルラッハは、このアルバムをマリーに贈っていますので、写真はゲルラッハが撮ったものと想像されます。



新湯の雲仙ホテル（左）と高来ホテル（右）、明治32年。

雲仙ホテルと高来ホテルは、共に明治30年の開業と思われます。この写真には写っていませんが、画面の右外に新湯ホテルがあります。新湯ホテルは、明治30年より少し前の開業かもしれません。

新湯が開設されたのは明治11年ですが、明治30年頃に、新湯に3つの西洋人向けホテルがほぼ同時に開業し、新湯において西洋人の宿泊環境が整いました。明治20年頃の下田ホテルの開業が小地獄における「避暑地時代」の始まりとすると、明治30年頃が新湯における「避暑地時代」の始まりとあって良いでしょう。この写真は明治32年、新湯における「避暑地時代」の正に幕開け時の写真です。これ以後、昭和の初めまで、新湯は西洋人で賑わうことになるのです。

雲仙温泉はかつて西洋人で賑わっていた、ということ、現在の雲仙温泉の風景に西洋人が歩く風景を想像しがちですが、西洋人で賑わっていた頃の雲仙温泉の風景は、実はこのような感じだったのです。道は舗装されていません。車もありません。電気も電話ももちろんありません。

場所は、雲仙ホテルが今の「お山のカフェ・レストラン・グリーンテラス雲仙」、高来ホテルが今の「お山の情報館別館」です。背後の山の稜線だけが、今も変わりません。

なお、雲仙ホテルは残念ながら昭和の中頃に廃業してしまいましたが、高来ホテルは場所と屋号を変えて、雲仙いわき旅館として古湯に健在です。



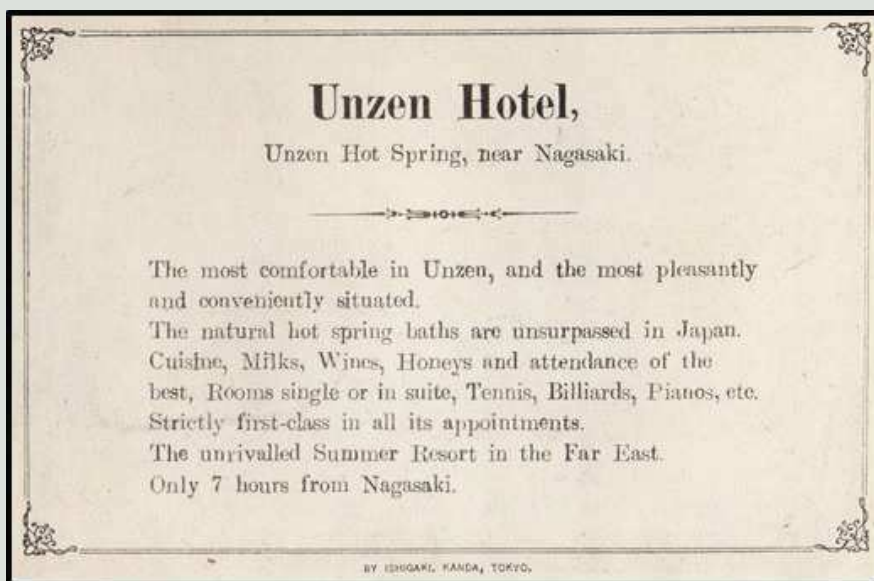


雲仙ホテル、明治末期。

雲仙ホテルは、当時の英字新聞の記事から明治30年の開業と思われます。外観は見ての通り、本格的な洋館。明治30年の西洋人の旅行記に“雲仙のホテルでは、雲仙ホテルが全く西洋のホテルのようで、間違いなくベスト”という記述が残っています。おそらくロビーの風景や客室の調度も本格的だったのでしょう。場所は今の「お山のカフェ・レストラン・グリーンテラス雲仙」の場所です。

ちなみに上記明治30年の旅行記から、宿泊料を拾ってみると、

- ・ 下田ホテル、雲仙ホテル、高来ホテルの3つの大きなホテルは、1泊3ドルから。
- ・ 日本家屋で畳の床だが、西洋料理を提供する準洋式ホテルは、1泊2ドルから。上田屋、新湯ホテル、湯元旅館、緑屋ホテルなどが良い。
- ・ これらとは別に、木賃宿は多くあり、料金は1階の部屋なら1泊40セント、2階なら50セント。



この封筒はがきは、雲仙ホテルが発行したものです。別の面には広告があります。

雲仙ホテル  
雲仙温泉、長崎近郊

-----

雲仙で最も快適、最も心地良く便利な場所。  
天然温泉のお風呂は天下一品。  
お食事、ミルク、ワイン、ハチミツ、お部屋はシングルもしくはスイート、  
テニス、ビリヤード、ピアノ、その他。  
東洋における比類の無い夏のリゾート地。  
長崎からわずか7時間。

長崎から雲仙まで7時間というのが歴史を感じさせますが、明治の後半に雲仙温泉では、西洋料理やワインを提供し、テニスコートやビリヤード台まであったのです。



九州ホテル、明治末期。

確認できた最も古い明確な記録は明治42年の広告でした。明治39年創業と明記している大正期の資料もあるので、おそらくはこの頃の創業と思われます。この写真は、ホテルに電線が来ていないように見えるので、明治期のもと思われます。

明治30年頃に3つの西洋人向けホテル—新湯ホテル、高来ホテル、雲仙ホテル—が開業したのに続いて、明治40年頃にも3つの西洋人向けホテル—有明ホテル、富貴屋ホテル、九州ホテル—が開業しました。これは、明治28年に日清戦争が、また明治38年に日露戦争が終結したと無縁ではないでしょう。戦争が終わって、平和になったのを契機に、上海や香港それにウラジオストックなどからの避暑客が増えたのです。

明治期の雲仙に関するお土産写真については、まだ発見されていないものがたくさんありそうです。今後の新発掘に期待したいところです。

明治期の雲仙温泉: 秘蔵古写真でたどる雲仙温泉の「避暑地時代」

発行日: 2019年5月31日

発行者: 岡山俊直

編集: 岡山奈央

翻訳: 梅村フィデス

協賛: 有限会社エコネットワークス

お問合せ: okayama@econetworks.jp

掲載内容の無断転載を禁じます。

@Toshinao Okayama All rights reserved